第6章 簡易タンク貯蔵所の基準

第1 定義（危政令第2条第5号）

- 1 簡易タンク貯蔵所とは、簡易タンクにおいて危険物を貯蔵し、又は取り扱う貯蔵所をいう。

2 貯蔵所又は取扱所の判断基準

取扱行為	施設区分	
	1日の取扱量が指定数量以上の場合の施設区分	1日の取扱量が指定数量未満の場合の施設区分
給油のみを行う	給油取扱所	簡易タンク貯蔵所
給油以外の取扱いのみを行う (例：容器への詰替え、移動タンク貯蔵所への充填等)	一般取扱所	簡易タンク貯蔵所
給油及び給油以外の取扱いの併用	給油取扱所 (給油と給油以外の取扱量のうちどちらかが指定数量以上または、1日におけるすべての取扱量の合計が指定数量以上である場合)	簡易タンク貯蔵所 (給油と給油以外の取扱量がそれぞれ指定数量未満であり、かつ、1日におけるすべての取扱量の合計が指定数量未満である場合)

(注) 簡易タンク貯蔵所に設けられた固定給油設備で自動車の燃料タンクに給油する行為又は容器に危険物を詰替える行為は貯蔵に伴う取扱いとして認められるものである。

(昭和37年4月6日 自消丙予発第44号) また、指定数量未満で行われる給油及び給油以外の取扱いは、貯蔵を目的としたものとする。(給油及び給油以外の取扱いの合計量が指定数量以上の場合は、貯蔵を目的としたものとはしないものである。)

第2 位置、構造及び設備の技術上の基準

1 位置（危政令第14条第1項第1号）

- (1) タンク専用室の構造等については、屋内タンク貯蔵所の基準第3 9の例によること。
- (2) タンク専用室の床については、屋内貯蔵所の基準第5 9の例によること。
- (3) タンク専用室の採光、照明、換気及び排出等については、屋内貯蔵所の基準第5 11の例によること。

- 2 簡易タンク貯蔵所の数（危政令第 14 条第 1 項第 2 号）

「同一品質の危険物」には、法別表第 1 の品名が同じであっても品質の異なるもの（例えばオクタン価の異なるガソリン等）は含まれないこと。
- 3 標識及び掲示板（危政令第 14 条第 1 項第 3 号）（危省令第 17 条第 1 項、第 18 条第 1 項）

標識及び掲示板は、外部から見やすい箇所に設けること。
- 4 設置方法等（危政令第 14 条第 1 項第 4 号）
 - (1) 簡易貯蔵タンクは、一般に移動可能な車を有しており、火災その他の緊急時には移動できるものとする。したがって、「固定」とは、コンクリート等移動が不可能な固定をいうものではなく、車止め又はくさり等による固定をいうものであること。
 - (2) 簡易貯蔵タンクを屋外に設置する場合、危険物を貯蔵し、又は取り扱う空地は、危政令第 17 条第 1 項第 2 号及び第 3 号の規定の例によるよう指導すること。
 - (3) 簡易貯蔵タンクを専用室内に設置するときは、当該タンクと専用室の屋根及びはりとの間に、点検整備のための空間として、0.5m 以上の間隔を保つよう指導すること。
- 5 通気管（危政令第 14 条第 1 項第 8 号）（危省令第 20 条第 4 項）

通気管の先端の高さが 1.5m 未満のものは、設置場所にコンクリート等の架台を設け、通気管の先端を簡易貯蔵タンクの周囲の地盤面より 1.5m 以上としても差し支えないこと。